

<部会の活動> 【原発と自然エネルギー研究部会】7月までの活動報告

### 新『放射線副読本』を検討中！

昨年度(2013年度)、「食品放射能を測る」という部会の取り組みにより、群馬の土と米も汚染されていることが肌身を持って感じられました。次ページに、部会で検討してきたまとめを「第一次食品放射能測定結果報告」として載せました。

その重さを大事にしながら、今年度は部会を4回(4/16、5/20、6/10、7/4)おこない、今年度の部会の活動テーマは「1)放射線測定に関する研究の継続、2)原発の歴史的経過と意味を学ぶ、3)自然エネルギーの可能性を調べる、4)原発と教育を考える」の4つと決め、現在まで活動してきました。

#### ○フォーラム総会企画「トーク&トーク いま、フクシマの子どもたちは…そして群馬では」(5/17)

この企画は、部会が立ち上がる前にフォーラムがおこなった福島取材時の高校の先生方にぜひ生の想いをトークしてもらおうと依頼したもので、私たちフォーラム全体としても福島第一原発事故問題には強い危惧を抱いていることから企画されたものです。部会としても大きく関わった記録すべき行事でした。(今号、およびHP原発と自然エネルギー研究部会トップ参照)

#### ○「原発の歴史的経過と意味を学ぶ」(テーマ2)

先の大戦で広島・長崎に2発もの原爆投下のあった日本に、一体なぜ現在稼働可能な原発が48基も存在するのでしょうか。本フォーラム内藤真治講師のユニークな語りと鋭い分析で2回にわたり学習しました。

- ・5/20 部会ミニミニ学習会「原発そもそも論」(HP 原発と自然エネルギー研究部会-アーカイブ「第11回部会報告」参照)
- ・5/31 部会応援企画「近現代史ゼミ 科学と政治、あるいは金もうけ」(HP 原発と自然エネルギー研究部会トップ参照)

#### ○「原発と教育を考える」(テーマ4)

「東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故により、放射性物質が大量に発電所の外に放出されてしまいました。このような特別の状況に国民一人一人が適切に対処していくためには、…」とその年の中川文科大臣の言葉のもとに作られた「副読本」、その「見直し」後の「新副

読本」が今年度配布されました。さて、どのように改訂されたのでしょうか。現在部会で討論中、です！

#### ○部会での話題

- ・高校理科の中でどうしたらよいか。
- ・「美味しんぼ」問題
- ・「ふくしま共同診療所」建設

をはじめ、他にも毎回部会員の多岐にわたる話題が近況交流の中で語られます。また、原田さんのように本格的に群馬の空中線量測定をおこなっている部会員もいます。でも、部会員にも日常がありますよ。声を紹介します。

#### ○部会員の声 《原田 喬》

70才を越えても高校から非常勤の誘いがある不思議さとうれしさを感じています。昨年前工機械科4時間、今年伊工電子機械科4時間、丁度よい負荷と緊張感です。専門科目であっても、教科書の内容が少しずつ変わっています。科学や技術の進歩です。しっかり予習をしていかないと間違ったことを語ってしまう恐ろしさ。いつまでたっても勉強ですね。

ところで、高教組(群馬県高等学校教職員組合)の組合員の少なさにはア然としました。組合は見えません。その中で頑張っている組合員に敬意尊敬をします。同時に、どうやって守っていくか、共に闘うか、仲間を増やすか。これ抜きにして学問や民主主義の進歩はありません。組合の無い所で発言することは不可能です。深刻に受け止め、前に進む方法を考えなければならぬと痛感しています。

## 群馬県内の米と土の放射能を計測してわかったこと

～ぐんま教育のつどい 2014・公開測定企画「実際にどうやって食品の放射能を測るの？」まとめ～

### 1. 経過

10/10 第4回部会の情報交換の中で「やはり食の問題が気になる」。

では「実際に測ってみよう」と、あんど測定所に電話。

12/12 第5回部会であんど測定所にて予備測定実施(前橋の米と土の2検体)

※ 県北の玄米、七分突き米、ヌカの3検体を後日測定で依頼。

2/11 ぐんま教育のつどい 2014・原発と教育分科会の公開企画実施(5検体)・・・計10検体

☆公開測定企画「実際にどうやって食品の放射能を測るの？」～食品に存在する放射性物質量の測定～

### 2. 企画のねらい

- ① 実際に測って、測定の方法を知ること
- ② 実際に基準内なのか確かめること

### 3. 測定結果

測定所:くらぶステーション(あんど測定所) 測定機器:CSK-2i(S/N:005) 単位:[Bq/kg]

検体		Cs137	測定下限	Cs134	測定下限	計	K40	測定下限
米	1) 白米・前橋	ND	強制定量	0.2	強制定量	0.2	97.9	強制定量
	2) 玄米・県北	ND	4.2	ND	1.4	ND	76.1	41.8
	3) 七分突き米・県北	ND	5.9	ND	2.0	ND	ND	59.8
米ぬか	4) 米ぬか・前橋	22.3	11.8	8.48	3.7	30.8	584	106.9
	5) 米ぬか・県北	16.7	4.0	6.0	1.3	22.7	608.3	36.9
	6) 米ぬか・熊本水俣	7.5	3.1	5.0	1.0	12.5	428	28.0
土	7) 土・前橋	54.2	10.2	23.0	2.7	77.2	260.9	84.2
	8) 土・県北	421	17.1	74.2	2.3	495	ND	92.2
他	9) 鹿肉・県南	52.4	7.0	7.79	2.0	60.2	ND	64.1
	10) 樹皮切り粉・藤岡	652	53.5	110	10.2	762	ND	375.9

※「強制定量」は不確かさを考慮せずに強制的に定量をおこなった結果です。「ND」は不検出です。

### 4. 考察

- (1) 精米した米からはほとんど検出されないが、米ぬかからは基準(100Bq/kg)内であるが2桁のレベルで検出された。このことから、玄米の表面に放射性物質の蓄積が推測される。
- (2) 群馬県の土は確かに汚染されており、県北ほどでないが前橋も汚染されている。
- (3) 九州の米ぬかからもわずかであるがCsが検出されたということは、九州にも放射性物質が飛来している可能性が疑われる。
- (4) 鹿肉も基準内とはいえ基準の半分以上の汚染があり、野生動物の放射性物質の摂取・蓄積が読み取れる。  
※今回の測定は検体数が少なく、もっと多くのデータでの検討が必要と思われる。

### 5. 結論

- ① 実際に測って、どういう機械で測るのが分かった。ただ、機械によって精度が異なるという。ほかの機械での比較も検討の必要がある。
- ② 米は玄米・精米ともほぼ不検出であったが、米ぬか、鹿肉は基準以内とはいえ、かなり蓄積していることが分かった。従って、玄米は精米する方が望ましく、それを口に入れるかどうかは一人ひとりの判断となる。  
(おわりに) 流通している食品の放射能の含有状態はどうか、検査実態はどうか、気になるところである。時間を空けて定期的に計測することが重要で、その社会的体制づくりが必要ではないだろうか。

《文責:坂田 尚之》